

この一瞬のための練習



鈴木英治

大正フロイデファンの貴方に！

今年はSound of musicを聴いてください。ナチズムを逃れ、家族全員でアメリカに渡り、この歌で一躍有名になったトラップ一家の歌が背景になっています。

此処で私達の練習風景を紹介しましょう。「爽やかな山の夜明けは：」とソプラノの高音から始まります。

ピアノでリズムを弾いて貰って、いよいよ練習の開始です。口移しの様に、二回、三回と声を出していきます。段々、皆のリズムや音が一つになって来ます。

次はソプラノとアルトの合唱練習、全パートの練習と進み、少しずつ歌の輪郭が出来上がってきます。然し「爽やかな山の夜明け：」の感じが出ません。

小川先生の手を変え、品を変えた指導が続きます。

念願のいずみホール



ソプラノ 足立愛子

同じ音でも発声と気持ち揃わないときれいなハーモニーにならないからです。夢中で歌い込んで行く内、アット気が付くと一瞬、美しいハーモニーが出来上がっていました。ホール全体に広がる一瞬です。

この一瞬のために私達は日々の練習に遠くから馳せ参じるのです。

本番の緊張感も素敵ですが、練習の始めと終わりで少し進んだ感じで帰宅するのも楽しく、毎週この様な楽しみを味わえるのが合唱の楽しみです。

演奏会本番でこの感じが伝わったでしょうか？

もし貴方の心に「爽やかな山の夜明けは：」のリズムが残っているなら、幸いです。

どうぞ、毎週金曜日の練習を聴きに来てください。

入口の受付に「見学に来ました！」と伝えて下さい。貴方の人生が変わりますよ。お待ちしております…。

私が大正フロイデを知ったきっかけは、インターネットで見た。昨年八月に見学させて頂いた時は、流石に殆どの方が暗譜されていて、五周年記念演奏会は見学するつもりで入団しました。ところが、先生方の熱心にご指導して下さいる様子に感動し、そして又、大正フロイデ先輩の方々から温かい励ましのお言葉を頂き、念願のいずみホール演奏会に参加させて頂く事が出来ました。僅か一ヶ月間の練習で満足出来るものではございませんでしたが、私にとって記念すべき合唱デビュー出来ました。今後も第九を初め、新しい曲にチャレンジし、歌う事の喜びを皆様と共に感動で彩られた、豊かな日々を過ごしていきたいと思えます。

平成23年度 大正フロイデの今後の主な行事

月	日(曜日)	行事	場所
2	19(日)	第6回第九定期演奏会	大阪市立千島体育館
		第九演奏会後 交流会	交流会：コミ協 3階ホール
3	16(金)	大正フロイデ総会	コミュニティセンター3階ホール

3月・4月 練習日程表 (午後6時45分～9時)				
当番	月	日	曜日	項目
C	2	18	土	第九リハーサル
D	3	1	木	定期練習
A		9	金	定期練習
B		16	金	定期練習
C		23	金	定期練習
D		30	金	定期練習
A	4	6	金	定期練習
B		13	金	定期練習
C		20	金	定期練習
D		27	金	定期練習

※大正フロイデのホームページからも読むことができます。

PC : <http://www12.atwiki.jp/freude/>

携帯 : <http://www12.atwiki.jp/freude/m>



募集

大正フロイデ 団報編集長 募集します

団報2月号 編集後記

今年も第九の季節がやって来ました。第一回目の第九演奏会は収容所閉鎖から90年目の同日である、平成19年2月18日でした。私たちがなぜ第九を歌うか？ 勿論大正に日本最初の第九指揮者のヘルマン・ハンゼンが居たからなんです。ではなぜこの季節か？そこで大阪俘虜収容所の捕虜たちの移送記事をご紹介します。

大正6年2月18日発行の大阪毎日新聞から「2月18日午後1時17分梅田発臨時軍用列車で広島県似島へ移送された450余名の卒は、午前9時に収容所をゾロゾロ繰出した。木津川尻の堤防を離れる時は、流石に感慨無量の体で収容所の建物を振り返った。やがてこの長い俘虜の行列が道幅の狭い軒家の下町にかかるると両側は見物人で埋まる。午前10時、新櫛橋から九条通に出て、賑やかな茨住吉前から川口居留地にかかる、見物人はいよいよ加わる。

中之島を一直線に渡辺橋から梅田駅に着いたのは午前11時過ぎになっていた。」と、記載